

ベルリンにあった18の門のひとつであるブランデンブルク門。ベルリンの壁崩壊時は真っ先にこの門の前の壁が壊された



東西ドイツ統合から35年 ベルリンの今を歩く

2025年は、東西ドイツ統合から35年。かつてベルリンの町を東西に分けた壁は1989年に崩壊し、そこから時を経てまったく異なる町へと生まれ変わった。当時の東ドイツを思いながら「今」のベルリンを歩く。

 Germany ドイツ / ベルリン



ベルリンの最旬スポットであるハッケシェ・ヘーウェ。いくつかの集合住宅の中庭にレストランやショップが並び、こちらは、ハッケシェ・ヘーウェ隣のハウス・シュヴァルツェンベルクの中庭

かつての東ドイツの中心 “ミッテ”地区 を歩く *Mitte Ward*

ベルリンの町は、ブランデンブルク門を境に東と西に大きく分けられる。旧東ベルリンの中心は「ミッテ」と呼ばれる歴史地区で、見どころが集中する観光スポット。ブランデンブルク門からメインストリートのウンター・デン・リンデンを東に歩けば、すぐにフンボルト大学や国立歌劇場などの歴史的な建物が並ぶ一角に出る。シュプレー川にかかるシュロス橋を渡った先が中洲の博物館島。島の北側に5つの博物館と大聖堂が建つ。中洲を過ぎ少し進むと、右手に公園が広がる。前方にあるレトロなタワーが、高さ368mのテレビ塔。ここから北へと進んだあたりがベルリンの繁華街。門からここまで歩くと、約半日。博物館などの見学時間を入れると1日で回るのにちょうどいい。



旧東ベルリンの中心部。ひときわ目立つのがテレビ塔



公園ではたくさんのベルリン市民がくつろぐ



テレビ塔前のアレクサンダー広場にあるウーラニア世界時計



ミッテ地区の繁華街にあるハッケシェ・ヘーウェは、20世紀初頭建造の集合住宅

町の中に今も残る “ベルリンの壁” を探して *Berlin Wall*

かつて東西ドイツを隔てたベルリンの壁は、1961年に東ドイツ政府により築かれた防壁。総延長は155kmにも及び、1989年の壁崩壊まで28年にわたり東から西への人の流出を抑え続けた。現在壁は取り除かれているが、一部は町の中に残されている。かつての壁に沿って歩き、壁についての展示のある博物館やオープンギャラリーを回るルートは、ベルリン観光の定番。ベルナウアー通りにあるベルリンの壁記念センターで壁の歴史について学び、壁伝いに西へ進み南下。ブランデンブルク門前を通り、壁博物館/ハウス・アム・チェックポイント・チャーリーへ。さらにイーストサイドギャラリーまで歩くと約2時間。地下鉄を利用すれば簡単だが、東西ドイツの歴史に思いを巡らせながら歩いて回るのがおすすめ。



イーストサイドギャラリーは、118人のアーティストがベルリンの壁崩壊後に描いた絵を展示するオープンギャラリー



壁の高さは約4m。上部が円形になっており手をかけることができなくなっている



撤去された壁の跡にはプレートが埋め込まれている

テーマで回る“今”のベルリン *Berlin Now*

ベルリンを訪れたら絶対に楽しみたい4つのテーマを案内。文化施設からエンタメ、グルメまでさまざま。



Theme 01

アート&博物館

Art & Museums

ドイツの首都であるベルリンは、国内有数の文化都市。町にはいくつもの博物館や美術館がある。ミッテ地区にある博物館島には5つの博物館と美術館が集中。なかでもベルガモン博物館は、ベルリン最大の見どころのひとつ。古代ギリシャから古代ローマ、イスラムの遺跡をそのまま移築しており、その壮大さ、優美さに目を見張ること間違いなし。



ドイツ絵画を中心に展示する旧ナショナルギャラリー



『真珠の首飾りの女』などフェルメールの絵を2点所蔵するゲメーレデガレリー(絵画館)

Theme 02

モダニズム建築

Modernism architecture

19世紀後半、爆発的に人口が増加したベルリンは多くの都市問題を抱えていた。その解決のために建てられたのが「ジードルング」と呼ばれる集合住宅。1910年代～30年代建造の6つの集合住宅が世界遺産に登録されている。設計を担当したのは、ブルーノ・タウトなどモダニズム建築の巨匠たち。建築マニア必見の見どころとなっている。



カール・レギーン住宅都市



ガルテンシュタット・ファルケンベルク

Theme 03

エンターテインメント

Entertainment

クラシック音楽からオペラ、演劇まで、あらゆるエンターテインメントが楽しめる。東西分裂時代には東西それぞれにコンサートホールとオペラハウスがあったため、通常町に1つしかない施設が複数存在しているのだ。最も人気があるのが、世界最高峰のオーケストラ、ベルリン・フィルの本拠地であるフィルハーモニー。若者に人気のナイトスポットも多数ある。



1742年完成のオペラハウス、国立歌劇場



ベルリン・フィルの本拠地、フィルハーモニー

Theme 04

グルメ

Gourmet

名物は肉料理。ソーセージにカレーソースをかけたカレーヴルストは、大衆料理の代表。アイスバインやケーニヒスベルガー・クロプセも定番。甘い物好きなら、揚げドーナツのベルリーナー・プファンクーヘンをぜひ。



カレーヴルスト Currywurst



ケーニヒスベルガー・クロプセ Königsberger Klopse



アイスバイン Eisbein



ベルリーナー・プファンクーヘン Berliner Pfannkuchen

無限の世界を教室に押し込めることはできない ～ユースホステルのもうひとつの役割～

Share the experience
youth-hostels.de

1909年、生徒と共に野外学習旅行に出たドイツ人教師リヒャルト・シルマンは突然の嵐に見舞われ、当時使われていなかった学校に身を寄せ一晩を過ごすことに。この経験が「青少年が安心して利用できる宿泊施設を世界中に」という思いにつながり、ユースホステルが誕生しました。のちにそのコンセプトを「無限の世界を教室に押し込めることはできない」と表現したシルマンは、青少年が環境保護の大切さを学び、異文化への理解を深めるのに「旅」は最適な教室だと考えていました。シルマンが作りたかったのは「若者向けの宿泊施設」ではなく「青少年が等しく学べる『旅の教室』」だったので。

100年以上の歴史を経てもなお、世界中のユースホステルではシルマンの思いを受け継ぎ、進化させる取り組みが続いています。発祥の地ドイツの一例が「IOU Respect - Building a Culture of Peace」です。アメリカ同時多発テロ後に高まった世界的な緊張と偏見へのアクションとして、2004年から毎年開催されている



ユースホステルを創設したドイツ人教師リヒャルト・シルマン



世界初のユースホステル「アルテナ城」は、現在も宿泊が可能



このプロジェクト。ドイツ、フランス、アメリカ、エジプト、レバノン、チュニジアから集った若者がユースホステルで共同生活を送りながら「宗教」「人権」「倫理」といったテーマについて対話を重ね、相互理解を深めています。世界中のユースホステルが取り組むこうしたプロジェクトには、ご宿泊料や会員登録料の一部が活用されています。旅する人が、より良い世界を作っていく。その架け橋になることも、ユースホステルのもうひとつの役割なのです。



ユースホステルの特別クーポン **HIHOSTELSJP** で

10% Airalo の eSIM が割引に!

10% 持続可能な取組みに寄付されます!

Peolunna ホロコーストとドイツ

ブランデンブルク門から南へ歩いていくと、左手にコンクリートのモニュメントが並んでいるの見える。これは、ホロコースト記念碑。第2次世界大戦中、ナチスドイツに迫害を受け虐殺されたユダヤ人のための記念碑だ。人類の負の遺産を見るのは気が重くなるかもしれないが、同じ過ちを繰り返さないことを誓う意味でも、ぜひ訪れたい。未来永劫の平和を祈り、悲しき過去を考えてみるとよい。



2711基の直方体の石が整然と並び

ジェネラルインフォ in ドイツ

時差:日本より8時間遅れ。サマータイム実施期間(3月最終日曜~10月最終日曜)は7時間遅れ。
ビザ:180日の期間内で、合計90日までの滞在なら不要。
通貨:ユーロ(€)。2025年1月現在、€1=161.49円
物価:日本とほぼ同じかやや高いくらい。都市部は宿泊費と外食費が高くつく。旧東ドイツの町は物価が安い傾向がある。
ベストシーズン:春から秋。夏でも比較的過ごしやすく、秋は紅葉がとりわけ美しい。冬の寒さは非常に厳しいが、12月には各地でクリスマスマーケットが開催され、町がクリスマスモードに包まれる。

現地ユースホステル情報
<https://hihostels.com/hostels/?country=Germany>

より詳しい情報は『地球の歩き方ドイツ』、『ベルリンと北ドイツ』へ



日本ユースホステル協会は日本国内にユースホステルを設置・運営すると共に、国際ユースホステル連盟 (Hostelling International) や各国のユースホステル協会と協調し、知見を広める「旅」を促進する活動を行っています。

こどもはおとなに。
おとなはこどもに、
なれる場所。



Hostelling Magazine vol.40



Cover Interview
奥田いろは(乃木坂46)
一瞬の美しさを残して、
消えてしまうものだから

P.02



Youth Hostel Pick up
自然の森
M.G.ユースホステル
人を慕い、人が集い、歴史を訪ぐ
平和への思いが生んだユースホステル

P.08



**Hostelling Magazine
× 地球の歩き方**
ベルリンの壁崩壊から35年
ベルリンの今を歩く

P.12



鉄道写真家 櫻井 寛
「列車で行こう!」

P.16



松島むうの
晴れときどき旅びより

P.18



YH-GUIDE
ユースホステルガイド
和歌山県 / 岡山県 / 広島県
山口県 / 徳島県 / 香川県
愛媛県 / 高知県 / 佐賀県
熊本県 / 大分県 / 宮崎県
鹿児島県 / 沖縄県

P.20



Hostelling Magazine vol.40
まとめてダウンロード

※本誌の情報は2025年2月10日現在のものです。変更になる場合がありますので、お出かけの前に現地にお確かめください。

発行所 一般財団法人日本ユースホステル協会 編集・発行人 寺島 真

TEL (03)5738-0546 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1国立オリンピック記念青少年総合センター内

※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。